

南昌だより

2018
No. **33**
2018年7月1日発行



こすかた保育園 本誌P8



恒和荘 本誌P12



悠和荘 本誌P11



志和荘 本誌P10



博愛荘 本誌P8



ケアセンター南昌 本誌P9



敬愛荘 本誌P14

医療法人社団 帰厚堂

【基本理念】

「愛と誠の精神」

私たちは、
すべての人に感謝の気持ちをもって
奉仕いたします
また、
信頼される医療を提供するために
全ての専門職種による
チーム医療に万全を期します

社会福祉法人 敬愛会

【基本理念】

「地域と共に生き 地域と共に歩む」

私たちは、
すべての人に感謝の気持ちをもって
奉仕いたします
また、
信頼される福祉サービスを提供するために
全ての専門職種による
チームケアに万全を期し
その人らしい生活が育まれるよう
支援します

2018
No. **33**
Contents

- 2P……巻頭言
- 3P……職場紹介
- 4P～5P ……リハビリテーション その4
- 6P……スタッフ紹介

- 7P～9P ……ケアセンター南昌
- 10P……志和荘
- 11P……悠和荘
- 12P……恒和荘
- 13P……若園荘
- 14P……敬愛荘
- 15P……南昌病院・敬寿荘
- 16P……診療案内



医療法人社団 帰厚堂
<http://www.kikodo.or.jp/>

社会福祉法人 敬愛会
<http://www.shiwasou.jp/>



日本医療機能評価機構

生まれ育った町の病院に勤務して



南昌病院 薬剤科長 蒲澤 一行

私は、今の矢幅駅西口のケアセンター南昌の辺りで生まれ、高校を卒業するまで矢巾町で暮らしていました。大学を卒業した後は県立病院に30年、盛岡赤十字病院に8年勤務して定年を迎え、今は、生まれ育った地の南昌病院にお世話になっています。

私が物心付いたあたりの原風景から矢巾町が大きく変わったように薬剤師の業務も物(医薬品)から人(患者及び医療スタッフ)への対応と大きく変化したので紹介します。

◎薬剤師業務の変遷

20世紀後半に多くの先輩薬剤師の努力により、平成4年の医療法改正で、今まで医療の担い手は医師、歯科医師、看護師などに限られた職種でしたが薬剤師も医療の担い手として明記されるようになりました。入院している患者さんへの服薬指導いわゆる薬剤管理指導は昭和63年に入院調剤技術料として新設され、平成6年に名称が薬剤管理指導料になり現在に至っています。平成24年には全ての入院患者が対象となる病棟薬剤管理業務が新設され、病棟担当薬剤師が1日の内4時間以上病棟に関わる業務を行うことで認められました。

これらの業務が新設される前は、病院には外来・入院の患者数に応じて算出される薬剤師数が病院毎規定されており、経営上規定された人数以上の薬剤師を採用する病院は僅かでした。今では、服薬指導が必要と認められる患者に行う薬剤管理指導料の算定、入院している全ての患者の安全安心を確保するため病棟薬剤管理業務実施加算が出来るため、経営上理解が得られ易くなりました。また、病院の医薬品の安全を確保するには薬剤師の能力が必要不可欠ということが認識され病院の薬剤師も規定の人数より多く採用されるようになりました。

◎当院の薬剤科業務

当院の薬剤科は薬剤師を募集しても応募者がいなかったもので少数精鋭で業務を行っていました。少ない薬剤師で変化していく業務に対応することは現場から要望があっても実現できませんでした。業務の中心は調剤業務で、定期薬の調整、一包化・ホチキス止め、簡易懸濁薬の処理などで精一杯で、その他、関連施設の調剤も請け負っており調剤業務が重要な仕事で占められていました。

◎これからの薬剤科

平成28年5月に薬剤師が1名増員し薬剤師6名、薬剤助手1名の体制となりました。平成28年11月には待望の処方オーダーリングが導入され、手書き処方箋から電子化に移行しました。このことは薬剤科業務に大きな変化をもたらし、以前取得していた薬剤管理指導業務が復活しました。平成30年3月には薬剤助手1名が追加採用となり薬剤師が病棟での関わりを多く持つことが出来るようになりました。今年の9月には病院機能評価も控えており院内の医薬品の安全を確保するため7月に病棟薬剤管理業務実施加算にもチャレンジしました。

我々病院に勤務する薬剤師は、薬剤管理指導業務と病棟薬剤管理業務の施設基準を満たした業務を行うことにより、今の病院薬剤師のスタートラインに達したと思っています。



職場紹介

介護予防の拠点!!

＝ 総合的な役割を担う ～ 地域の高齢者支援 ＝

矢巾町地域包括支援センター

当センターはケアセンター南昌の正面玄関から入り1階の右奥になります。

高齢者への総合的な相談・支援の窓口です。

介護予防の拠点として、高齢者本人や家族からの相談に対応し、介護・福祉・医療・健康・虐待防止など必要な支援が提供されるよう調整しています。

矢巾町・医療機関・サービス提供事業者・ボランティアなどと協力しながら、地域の高齢者の様々な相談に対応する総合的な役割を担っています。

メンバーは所長（主任介護支援専門員）、保健師・社会福祉士・介護支援専門員・認知症地域支援推進員（精神保健福祉士）・事務の6名で構成されています。

朝のミーティング後は相談業務、訪問等、それぞれの持ち場へ。

さわやかハウス健康長寿課には認知症地域支援推進員が1名常駐し、認知症相談を中心とした相談窓口となり、矢巾町のさまざまな認知症の支援の取り組みを進めています。



年間を通しては

- ◆ 矢巾町等ケアマネ・サービス事業所合同連絡会
- ◆ 地域ケア会議
- ◆ ごきげんサロン
- ◆ 認知症夜間相談
- ◆ おれんじカフェ
- ◆ 認知症サポーター養成講座

などを実施しています。

また、毎年3月に開催している認知症セミナーは講師の方をむかえ、認知症について学びます。どなたでも参加いただけますので是非参加してみたいかでしょうか。

◇ ホームページ&ブログを展開中です。チェックしてみてください。

<http://yahaba-houkatu.jp>

矢巾町地域包括支援センター
(ケアセンター南昌1階)

☎019-611-2855

さわやかハウス相談室
(さわやかハウス内)

☎019-697-5570

※認知症地域支援推進員



毎日運行しています!! ～ 無料シャトルバス ～

〈矢幅駅西口から南昌病院間〉無料シャトルバス運行時刻表

◎ 運行日/毎日(祝祭日等を含む)

【往路】

〔ケアセンター南昌〕	〔志和荘〕	〔悠和荘〕	〔南昌病院・敬愛荘〕
※ 8時15分	～ 8時26分	～ 8時28分	～ 8時30分
10時00分	～ 10時11分	～ 10時13分	～ 10時15分
12時45分	～ 12時56分	～ 12時58分	～ 13時00分
14時45分	～ 14時56分	～ 14時58分	～ 15時00分
※ 17時30分	～ 17時41分	～ 17時43分	～ 17時45分

【復路】

〔南昌病院・敬愛荘〕	〔悠和荘〕	〔志和荘〕	〔ケアセンター南昌〕
※ 8時45分	～ 8時47分	～ 8時49分	～ 9時00分
10時30分	～ 10時32分	～ 10時35分	～ 10時45分
13時15分	～ 13時17分	～ 13時19分	～ 13時30分
15時15分	～ 15時17分	～ 15時19分	～ 15時30分
※ 18時00分	～ 18時02分	～ 18時04分	～ 18時15分

※の時刻は、土曜・日曜日及び祝祭日、運行休止となります。

注) 運行時刻は、交通状況により、発着時間に遅れが生じる場合があります。



連載

「リハビリテーション」

その4



「廃用症候群」とリハビリテーション

国際宇宙ステーションにおよそ5ヶ月半滞在した宇宙飛行士の金井宣茂さんが、現地時間の6月3日午後6時39分、ロシアのソユーズ宇宙船で中央アジア・カザフスタンの草原に着陸、無事に地球に帰還しました。金井さんが地球から飛び立ったのは、本連載の2回目に話題として取り上げた時なので、昨年の12月でしたでしょうか。およそ半年間の宇宙滞在は、金井さん自身の想像も超える身体機能の低下があったようで、現在、金井さんはJAXA宇宙航空研究開発機構の施設でリハビリに取り組んでおられるようです。



さて、前回までは、微小重力環境が生体にどのような影響を及ぼすのか、その生理的变化について述べました。人の機能を支える筋肉や骨、神経システムは、重力を受けないことで様々な衰えが生じることを知りました。そして、重力が存在するこの地球上においても、何らかの要因によって安静臥床（あんせいしょうこうぐん：静かに動かずに横になっている状態）が強いられると、同じような生理的变化が生じることに触れました。いわゆる「廃用症候群（はいようしょうこうぐん）」と言われるものがそれにあたります。

廃用症候群とは、病気やケガなどによる過度の安静や、日常生活において不活発な状態が続くことに伴って生じる身体的・精神的諸症状の総称です。“廃用症候群”は、いわば“生活不活発病”と同じ意味合いで、一般的には後者の表現の方がイメージをしやすいかと思えます。リハビリテーション医療においては、この廃用症候群をいかに防ぐかということが、重要なポイントの一つ

になります。

以下に、廃用症候群の中で、筋骨格系に見られる代表的な症状を挙げ、その中身についてまとめたいと思います。

「廃用性筋萎縮（はいようせいきんいしゅく）による筋力・筋持久力低下」

人が運動や活動をするためには、それぞれの筋肉が収縮（しゅうしゅく：ある一定の状態から筋肉が縮もうとする働き。それによって力を発生する）することで各関節が自由に動かせたり、固定できたりすることが必要です。

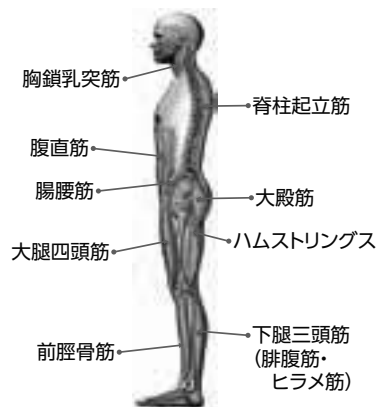
安静や不活発な状態が続くと、筋肉の収縮機会が減少します。筋肉は、収縮性の繊維状細胞である「筋繊維（きんせんい）」で構成されますが、収縮機会が少ない筋肉は筋繊維の萎縮や繊維数そのものの減少が生じます。結果として筋力や筋持久力の低下が引き起こされるわけですが、そのような状態を「廃用性筋力低下」と言います。

筋力は、1週間の安静臥床でおよそ10～15%低下すると言われます。組織学的には、筋繊維構成蛋白の減少と合成能低下が特徴として挙げられます。

また、長期の安静臥床によって筋力が低下しやすいのは、特に抗重力筋（図1）に顕著であると言われます。

因みに、一般的には最大筋力の20～30%の筋収縮を発揮する運動を行えば筋力は維持され、30%以上の筋収縮を発揮する運動を行うと増大するとされます。

図1 抗重力筋



「骨萎縮(こついしゅく)」

骨は、体重負荷や運動による刺激(力学的負荷)を受けることによって、細胞レベルでその量(骨量:こつりょう)が維持されています。逆に、安静臥床や不活発な状態が続いて、骨に加わる力学的負荷が少なくなると、骨芽細胞と言われる細胞の働きが弱くなり、骨量は減少します。すなわち、骨粗鬆症化するということです。

また、カルシウム代謝に影響することも知られており、安静臥床や不活発によって骨から血液中に遊離したカルシウムは、尿中に排出(高カルシウム尿)され、腎、尿路結石の原因になるといわれます。

骨量が減少すると、骨は弱くなり骨折なども生じやすくなります。安静臥床や不活発な状態に伴って見られるこのような骨量の減少は、大腿骨(だいたいこつ:太腿の骨)、脛骨(けいこつ:すねの骨)、踵骨(しょうこつ:かかとの骨)など、特に、身体を支える役割を持つ骨に顕著であると言われます。

従って、人体に加わる長軸方向の力(頭から足への垂直方向の力)である重力をしっかりと受けること、即ち、しっかりと立つ、あるいは座るといった姿勢で体重を支えることは、骨芽細胞を刺激し、骨量減少を抑えるためにも有益であると言えます。

「関節拘縮(かんせつこうしゅく)」

関節は、骨、軟骨、滑膜(かつまく)、関節包(かんせつほう)、靭帯(じんたい)などの組織で構成されます。その周りには、関節を動かすための筋肉や腱があり、さらに、皮下組織と皮膚がそれらの組織を包み込んでいます。

それぞれの関節には動く範囲があり、それを関節可動域(かんせつかどういき:range of motion:以下、ROM)と言います。このROMが、なんらかの原因で制限された状態が関節拘縮です。

ある関節が不動化(関節を動かさない状態)されると、数日でその関節周囲の組織には変性が生じ、柔軟性が失われはじめると言われます。動物実験では、2週間の関節の固定によって、その関節がある角度以上は動かすことが難しくなると報告されています。

以上、廃用症候群の症状の中で、筋骨格系に見られる代表的なものについてまとめました。こうしてみると、全て、安静や臥床による不活発な状態に伴って二次的に引き起こされる症状であることが分かります。これらは、

ある日突然に生じることはありません。むしろ、気づかないうちに、しかし日を追うごとに確実に細胞レベルからその症状が進んでいきます。そして、これらは互いに影響し合い、ますますその症状の進行を加速させる悪循環に陥る怖さを認識することが大切です。

逆に考えれば、できるだけ早い段階で不活発な状態を断ち切ることで、これらの症状の発生や進行を防ぎ、より効果的な回復に進むことができるはずです。そのために必要なことは、端的に言えば「座る」「立つ」の抗重力姿勢をとること。関節をできるだけ動かしてその動く範囲をしっかりと保ち、そして筋肉を少しでも動かせることです。

現在では、急性期病院などにおいても、「安静」は過去の考え方として、できるだけ早期から坐り、立つこと、身体を動かすことが推奨され、そのための体制の充実も図られていると聞きます。しかし、1日24時間で考えれば、それでも専門職が関わる時間は限られます。たとえ何らかの要因で一時的に安静が強いられたとしても、一人でも多くの患者さんやご家族がこのような理解を持ち、専門職と協力して、普段から取り組んでいただくことで、「寝たきりにならない」あるいは「寝たきりが作られない」ようになればと思います。

リハビリテーションは、病気やケガによって生じた障がいへの回復・改善を図ることはもちろんですが、決して、失われた機能を取り戻すことだけに目を向けるのではなく、同時に重要なことは、残存する機能や能力を失わないようにすること、すなわち「廃用症候群」といわれる状態に陥らないようにする“予防的観点”までをも含めて考えること、そして、それは皆で取り組むことが大切である。というようにご理解をいただければ幸いです。



スタッフ紹介

私の仕事は……

生活を再構築するお手伝い

= 介護が必要になった方と、そのご家族へ =



介護老人保健施設
「博愛荘」
支援相談員
小泉 進

ケアセンター南昌内にある介護老人保健施設「博愛荘」支援相談員の小泉進と申します。最近よく言われますが、あの政治家とは縁もゆかりもございません。

医療法人社団帰厚堂に入職し、今年度で13年目になります。南昌病院に相談員として入職し、併設の介護老人保健施設敬愛荘を経て、平成28年から現在の博愛荘に勤務しています。

私が勤務する介護老人保健施設とは、「在宅復帰」と「在宅療養」の支援をすることが役割となっています。つまりは何らかの理由で要介護状態となり、リハビリが必要な方々が入所し「自宅に戻ること」と「自宅での生活を長く続けること」を目的にサービスを提供しています。

支援相談員という職種は一般的には聞き慣れないかもしれません。よくケアマネジャーと間違われ、手取り早く理解していただくのに「似たようなものですね」と言ってしまうのですが、当施設への入所を検討する方々と最初にコンタクトを取り、入所から退所までの支援をしています。

利用相談の受付をするのですが、単に要望をお聞きするだけではなく、その方々がどのような生活を望んでいるのか、それに私たちの施設がお役に立てるかを一緒に考えていきます。初めて介護保険サービスを利用する方もいますので、出来る限り分かりやすい説明をして、今後の生活をイメージできるようにと心掛けています。

当施設に申し込むご家族の中には、「施設に預けることは本人に申し訳ない。」「家で過ごさせてあげた

いけど、仕事も育児もあるし…」と後ろめたさを抱えている方も多くいますが、受付の際のやりとり

で、当施設や当センターのサービスを利用しながらの生活スタイルを提案すると「もう家に帰るのは無理かと思っていただけ、この方法なら何とかなりそうです。やってみたいと思います。」と仰っていただける方もいます。その時のご家族は迷いが晴れたような表情をされることが多く、その時までの葛藤や悩みが多かったのだらうなど感じる瞬間です。

数えたことはありませんが、これまで数百人の方々と面接を行い、その方々の人生に関わることをしてきました。病気や怪我、加齢等でこれまでの生活が難しくなってしまった時に会う仕事なので、私の仕事は要介護になった方とその家族の生活の再構築のお手伝いだと思っています。いつか「小泉さんに言えば何とかなるっけ!」と地域で評価される相談員になれるよう、これからも真摯に仕事に向き合っていきたいと思っています。



一人ひとりに合った支援 リハビリテーション

専門スタッフがチームを組んで集中的にリハビリを実施

365日リハビリテーション提供!! (回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病床)

○南昌病院 ○敬愛荘 ○博愛荘 ○訪問リハビリテーションこずかた……

リハスタッフ総勢83名 (理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)、(ほかに臨床心理士)

各施設から

ケアセンター南昌での主な取り組みについて (H30:4~6)

【チャグチャグ馬コ】 (ケアセンター南昌)

毎年恒例のチャグチャグ馬コが今年も来てくれました。様々な装飾品で着飾った姿をみると、利用者からは「じゃじゃじゃおっきーこど」「いっぺー着飾っているこど」などの声が聞かれ、保育園の園児からは「大きいね!!」「お鼻がチクチクしているね」「鈴がたくさんついているね!」と子どもながらのつぶやきも聞こえました。



なんと、偶然にも同じ名前の園児がいて共演することとなりました。最初は怖がっていましたが、お馬さんの背中に乗ると、嬉しそうに手を振って、最後はとっても仲良しになりました♪

また、今年は高橋町長もおこしいたさき、挨拶のときには、町長の質問に馬コが答え会話をする奇跡が起きるなど、和やかな楽しいイベントとなりました。



【誕生会】 (博愛荘・敬寿荘)

【4月誕生会】

インフルエンザが流行したため、お誕生会は芸達者な職員たちによる、職員対抗大相撲大会を開催しました。新人もベテランもみな真剣に、顔色を伺うことなく日頃のうっぷんを晴らすように、とり合っていました。優勝者はまさかの新人介護士にみな驚き、周りで観戦、応援していた利用者も職員と一緒に大笑いしていました。



4月誕生会



【5月誕生会】

毎年恒例で、こずかた保育園児による歌と踊りのお遊戯を披露してもらいました。今年度に年長となった園児達は、先生の進行に合わせて立派に踊っていました。子供たちの成長した姿に、利用者もとても喜び、中には手拍子しながら涙を流す方もいて、ほっこりとした誕生会となりました。

5月誕生会



【敬寿荘】

グループホーム敬寿荘では、入居者一人一人の誕生日の日にささやかではありますが、お誕生日のお祝いをしています。お昼のメニューは誕生者の希望のメニューを作り、おやつ時間に職員のセンスが光る!?手作りケーキやお菓子、メッセージの書かれた色紙を用意し、入居者・職員一緒に家庭的な誕生会をおこなっております。



敬寿荘 誕生会

【今も昔も花ざかり】 (博愛荘)

地域の方にいただいた芍薬などの花で荘内を花で飾りました。生け花が趣味という利用者さんを中心にテーブルに新聞紙をひき、花を広げて生け花スタート!濃紫や白やピンクの美しい花々を前に「『立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花』って言うんだよねえ〜。」などと話されながら枝を整えたり、思い思いに花を生けておられました。このつぼみはいつ頃咲くのか、どの色の花が好きかなど、話題が尽きることなく、しばらく花の話題で盛り上がりみなさんいい笑顔。一方、ベランダでは、職員・利用者が話し合っただけの野菜の苗が育っています。今年は、きゅうりとトマト、蕪などを植えました。

成長と収穫を楽しみに、毎日水やりと観察を行なっています。植物からもらうパワーには特別なものがあります。日々の生活をいきいきと送ることができるようなこのような取り組みをこれからも続けていきたいです。



【ふれあい看護体験】(博愛荘)

5月10日ふれあい看護体験として、白百合高校から2名の生徒が体験学習に来ました。ベテランのスーパー看護師である川戸総看護師長から介護施設での看護師としての仕事を学び、体験学習では日常の介護業務のほかに、血圧測定や手浴などを体験しました。

真剣にそして楽しんで取り組んでいました。看護師となって戻ってきてもらうことを望みながら、未来の看護の卵に希望をもつことができるとなりました。



【菜の花鑑賞会 5月15日(火)】(こずかた保育園)

4・5歳児43名で、菜の花畑に行ってきました。黄色い絨毯の中に入り探検したり、背比べをしたり、チョウやハチなどの色々な自然の仲間たちに出会うことができました。慣れてくると畑を走り回ったりと自然を満喫し、最後はみんなで南昌山に向かって「ヤッホー」と呼び掛け、楽しいひと時を過ごしました。



【矢巾町消防演習 6月10日(日)】(こずかた保育園)

曇り空の中、矢巾町内7園の年長児が岩手県消防学校で「江戸火消しこ組出動」の演技を披露してきました。たくさんの観客の中、こずかた保育園の「敬礼！」の号令で、色とりどりのポンポンを持ち、元気なお遊戯を披露してきました。矢巾町長さんをはじめ、多くの皆さんからたくさんのお褒めの言葉をいただきました。

また、幼年消防クラブの一員として「火遊びをしません！」と防火の約束をしました。



【利用者の皆さんの作品づくり】

(デイサービスつむぎ・博愛荘デイケアセンター)

【デイサービスつむぎ】

以前出品した壁画が「月間DAY」7月号に掲載され、入賞しました。つむぎで力を入れている、ペーパークイリングというクラフトの方法で作った作品です。いただいた商品券は新たな作品作りの資金とさせていただきますと考えています。これを励みに今後も作品作りを通して、利用者とかかわり、楽しんでいきたいと思えます。*以下は掲載された講評です。
評：繊細で細部まで丁寧に工夫を凝らして作られています。

深みのある色をちりばめることで生まれる落ち着いた華やかさが魅力ですね。皆さまの毎日を見守る看板です。



【博愛荘デイケアセンター】

デイケアセンターでは、利用者がそれぞれ文化祭での作品作りに取り組んでいます。昨年の作品を一部紹介いたします。

- ①お花紙を丸めて作成した朝顔とひまわりの貼り絵
- ②紙スプーンに色を塗り細かく切って作成した貼り絵
- ③刺し子

他にも、編み物、縫い物、塗り絵、チラシ箱作りなどどれもすばらしい傑作です!!また、今年はフェルトのバッグ作りに挑戦したり、毎月1回先生をお呼びしてちぎり絵の作成など去年の作品を越えようと限られた時間の中で取り組んでいます。

このような制作活動は、利用者の目標や目的に合わせた活動の場を提供する事で日中の活動性や意欲の向上など、生活の質をより高められる時間となり、利用者の自己表現・自己実現の機会となる為、全員が意欲的に参加出来るよう支援しています。

今年の作品は文化祭当日までのお楽しみとなりますので、是非見にいらしてください!(文化祭予定日10/13)



【ケアセンター南昌研修会】

ケアセンター南昌では、職員のスキルアップや、職員の安全管理のために、各月のテーマに沿った研修会を実施しております。講師には、各種研修会等に参加した職員、各分野の専門の先生、そしてときには県外からも講師をお招きし開催しております。

◎5月9日(水) 18:00~19:00「平成30年度介護報酬改定のポイント」 参加者:41名

講師:ケアセンター南昌 事務長補佐 滝村光一、管理栄養士 阿部理香

平成30年4月1日に介護報酬改定が行われ、職員向けに改定のポイントを事務長補佐滝村から、管理栄養士阿部からはセンター内の複数の事業所に関連する栄養関係の新設加算について説明が行なわれました。

《そもそも介護報酬とは何か?》

事業者が利用者に介護サービスを提供した場合に、その対価として事業者を支払われる報酬のことです。また、事業所のサービス提供体制や利用者の状況に応じて加算・減算される仕組みになっています。改定は原則3年に一回行われる。※年度途中で改定もある。

《平成30年度の介護報酬改定の重点は?》

国民1人ひとりが状態に応じた適切なサービスが受けられるよう、質が高く効率的な介護の提供体制の整備を推進することを掲げている。また、地域の実情に応じて、できる限り住み慣れた地域で生活ができるよう、地域包括ケアシステム(どこに住んでいても適切な医療・介護をうけることができる体制)の構築を推進している。

上記の説明に付け加え、ケアセンター南昌には介護報酬改定に関係する10の事業所があり、各事業所の主な改定内容も細かく説明され、研修の参加者も他事業所の取り組みを真剣に聞いていました。(研修委員N)



◎5月25日(金) 18:00~19:00 ケアセンター南昌5周年記念講演

「『一人十色の死生観』~紡がれてここに在る、この命を考えよう」 参加者:86名

講師:社会福祉法人光寿会 特別養護老人ホーム光寿苑 法人理事長/総合施設長 太田宣承先生

ケアセンター南昌5周年を迎えて太田宣承先生に死生観のご講演をいただきました。施設長をされている施設内での実際にあった出来事や仏教の教えをすり合わせながら、笑いあり、時にほろりと涙を誘いあつという間の時間でした。

「一人十色」その人らしさができないときもある。癌だから…認知症だから…とひとくくりにせず、ひとりの中にさまざまな人生がある、感情がある、そして揺れ動くこと。その揺れ動きに寄り添い耳を傾けることが大切なこと。「死生感」は難しいものではなく大切な人と語り合い自分の人生を豊かに幸せであるために大切なものであること。人生について問いかげられ考えさせられた貴重な時間でした。私たちも太田先生との出会いから人生の彩をつけていただきました。感謝。(研修委員S)



◎6月22日(金) 18:00~19:00「認知症サポーター養成講座」 参加者:63名

講師:岩手医科大学 神経内科・老年科 助教 臨床心理士 赤坂 博先生

《認知症サポーターとは》

「認知症サポーター養成講座」を受けると全員がサポーターになります。認知症に対する正しい知識と理解を持ち、認知症の人やその家族を見守り、時には手助けするのがサポーターの役割です。矢巾町では公民館、企業、学校などで講座が開催され、サポーター数は4,000人を超えています。今回はケアセンター南昌で行われている「認知症へのより高度な対応プロジェクト」の一環として開催され、センター内の介護・福祉専門職以外の職員にも多く呼びかけ、新たなサポーターが多数誕生しました!サポーターの目印は「オレンジリング」ですので、職員の手元・ネームプレート付近にご注目下さい。(研修委員K)



志和荘

施設紹介

特別養護老人ホーム：常に介護が必要で自宅では介護ができない方が対象の施設です。



【お花見弁当】

5月10日(木)春のお食事をを行いました。3階の地域交流センターに集まり、いつもよりちょっぴり豪華なお弁当で楽しみました。

テーブルに飾られた菜の花を愛でながら、お花の形のつみれや梅しらすご飯といった春を感じる食事をして、目でも舌でも春を満喫していました。

食事が終わり、皆さんお待ちかねのカラオケです。あやめ町の高橋さんは『さざんかの宿』・ききょう町の田村さんは職員と『北空港』をデュエットしました。どちらも変なバックダンサーを従え、自慢の声を披露してくれました。

桜の時期は過ぎてしまいましたが、これから色々な花が咲きます。皆さんも元気いっぱい、あと一花も二花も咲かせましょう～！



【三寿司志和荘店】



5月24日(木)三寿司志和荘店が開店しました。三寿司さんのご厚意で、毎年この時期にプロの職人さんが来て美味しいお寿司を握ってくれます。

寿司桶に入ったウニ・マグロ・エビ・ホタテ…どれも美味しそうに輝いています。まさにお寿司の宝宝箱や～(すみません、あまりに美味しそうなお寿司に我を失ってしまいました!)おかわりも自由で、「やっぱり三寿司と行ったら納豆巻!」と注文する方や、一度ならず二度三度とおかわりをする方もいました。

三寿司志和荘店は、皆さんとても楽しみにしている行事の一つです。来年も是非来てください。お待ちしております～す!



【チャグチャグ馬コ】



6月4日(月)岩手の初夏の風物詩・チャグチャグ馬コが志和荘に来ました!色鮮やか・豪華絢爛の装束を身にまとい、チャグチャグと鈴の音を鳴らしながら歩く姿を見て皆さん喜んでいました。栗石あねっこの踊りを「うわ～凄い!」「上手いもんだな～!」と見物し、途中職員や実習生も加わりながら見よう見真似で踊りました。

チャグチャグと去って行く後ろ姿を見ながら、「来年もまた来いよ～!」と話していました。



【ありがとうございます!ボランティアさん♥】

『さくらの船の会』のボランティアさんは、毎月第2・4木曜日に来荘されます。第2木曜日は書道サークル・第4木曜日はなごみ茶屋をお手伝いしていただいています。書道サークルでは、会場準備や用具の準備をしていただきます。入居者さんは書いた作品をボランティアさんに褒められ、とても嬉しそうに笑っています。職員が褒めた時よりいい顔をするような気が…。



なごみ茶屋では、コミュニケーションを取りながらケーキやコーヒー等を運んでもらったり洗い物をしてもらったりします。

ボランティアさんとふれあう事で、新しい刺激を受け楽しいひと時を共に過ごせる喜びを感じています。

さくらの船の会の皆さん、お忙しい中志和荘にお越しいただき、ありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。



【法人研修】



月に1回(主に第3木曜日の午後)、社会福祉法人敬愛会の職員を対象とした法人研修会を実施しています。『感染症について』『職員のメンタルヘルスについて』『リスクマネジメントについて』など、内容は多岐に渡っています。

4月は日本赤十字病院の小田切宏恵さん・泉田未奈さんを講師に迎え『看取りについて』学び、5月は南昌病院 医療安全管理主任専門員の吉田優さんを講師に迎え『感染症について』学びました。その道の専門の方の話をお聴きし、より深く理解する事ができました。

多くの知識や技術を身に付け、より良いケアが出来るように頑張っていきたいと思ひます。



4月から悠和荘の施設長が変わりました

名前は村田光宏、羊年生まれです。今は悠和荘花壇の成長を見るのが楽しみです。スイカ、枝豆、落花生、食用ほおずき…、皆で食べるのもっと楽しみです！
よろしくお願
いします。



4月18日 入居者と意見交換会

施設長：「悠和荘の畑に植えたいものはありますか？」
入居者：「やっぱり花より食べ物だね～！」



5月12日 南昌やまゆりの会の皆さんによる花壇整備

毎年、悠和荘の花壇整備をしてくれています。
毎年ありがとうございます。お花に皆さん大喜びです。



5月24日 悠和荘対抗☆大☆運動会

運動会になると皆さんいつもと違い、普段の倍速で車椅子を駆動する入居者が!! 気合十分!!



☆6月6日 チャグチャグ馬ヨ来荘

ちゃ〜ぐ、ちゃ〜ぐ、う〜ま〜っこや〜♪シャンシャンと鳴り響く鈴の音色に「何が来たんだ?」と気になる皆さん、馬ヨ来ましたよ〜! この笑顔! 歌と踊り最高!!! 右側…施設長も踊っている!!!



☆6月14日 火災避難訓練・土砂災害時の隣接施設移送訓練

今年度第1回目の「火災避難訓練」と、初の「土砂災害における隣接施設への移送訓練」を実施しました。
万が一の火災や大雨による土砂災害に備え、職員が入居者を安全に避難誘導・移送できるよう一つの動作と全体の流れを確認しました。課題もありましたが慌てず急がず、且つ安全迅速に行動できるよう、これから先の訓練に学んだ事を活かして行きたいと思います。



社会福祉法人敬愛会の通所介護事業の終了について

平成3年の開設以来、27年余地域の皆様に介護サービスを提供する通所介護事業を続けてまいりましたが、平成30年7月31日をもって、事業を終了する事になりました。建物は改築されて、特別養護老人ホーム悠和荘の長期入所8部屋に生まれかわります。長年にわたり賜りました皆様のご芳情に謹んで御礼申し上げます。

敬愛会老人デイサービスセンター所長 村田光宏・職員一同

恒和荘

施設紹介

小規模多機能型居宅介護事業所：小規模な住宅型の施設で、通いのほか、訪問、短期間の宿泊などを組み合わせて食事、入浴などの介護や支援が受けられる施設です。盛岡市在住者が対象です。

今年も展勝地に行ってきました！

4月20日北上展勝地へお花見に行ってきました。当日は天気にも恵まれ行楽日和ということもあって、現地は観光客も多く、にぎわいを見せていました。そのような雰囲気の中、桜はちょうど満開になろうとしていて、8分咲きといった感じだったのでしょうか。お花見に設定した日程も良かったです。展勝地では桜並木を散歩したり、直接桜に触れてみたり、猿まわしの芸を見ることもできました。

実際に自分の目で見たり触れたりすることは写真やテレビの画面で見る以上の感動や喜びがあると感じました。その後、花巻まで移動し、金婚亭にて昼食を食べました。いつもと違った雰囲気の中で食べる食事は格別な味がしたと話していました。新緑とお花の美しい4月に自然とのふれあいができて、本当に良かったと喜んでいました。



みな笑顔
ま花と同じ
満開だ
あつちもね
こつちも満開
笑顔下わ
淑子



地域に雑巾を贈呈

昨年に引き続き、今年も利用者と職員で雑巾を縫いました。4月上旬、恒和荘を代表して利用者、職員計4名で山王小学校、城東小学校、山王センターへ各30枚づつ贈呈に行きました。地域の方々に少しでもお役に立つことが出来れば…という気持ちでコツコツと作りました。中には縫い目が不揃いのものもありましたが、手作りの雑巾1枚1枚には心が込もっていて温かみがあるように思います。



小学校、中学校では校長先生と少しの時間交流することができ、地域とのつながりの大切さを再認識する機会となりました。

♪♪ お茶会へどうぞ ♪♪

5月のお茶会は、盛岡二高のマンドリン・ギター部による演奏でした。なつかしい曲を含めて10曲程で皆様聴き入っていました。特に「水戸黄門のテーマ曲」や「青い山脈」のときには口ずさんでいました。合間には曲にまつわるクイズもあり楽しんでいました。20名程の生徒方の若いパワーに圧倒されながらも、楽しいひとときを過ごしました。



6月のお茶会ではご近所の方による折り紙講座とカラオケを行ないました。

●お茶会は毎月第4土曜日の14時から開催しております。一緒に楽しんで下さるボランティアさんも募集しております。

避難訓練を行いました

中央消防署中野出張所員3名の立会いのもと、日中想定避難訓練を実施しました。当日は地域住民3名の参加と協力を受け、利用者15名無事に屋外へ避難することができました。

講評として「良く出来たと思いますが、実際に火事がおきて熱い煙を吸うとどうなりますか？」と利用者さんへ質問がありました。喉が火傷をするなど呼吸ができなくなるので、タオルやハンカチなどで自分の口を守って下さいと助言を受けました。

避難訓練に引き続き、AEDの研修を行ないました。初めにAEDとは…の説明後、実際にAEDを使い使用方法等について学びました。消防署員より「呼吸がない時は迷わずAEDを使ってください。電気ショックが必要かどうかはAEDが判断してくれるため、心臓マッサージ(1分間に120回)も行ない、命を救うために行動してほしいと話があり、職員も改めて勇気ある行動が必要であることを再認識しました。



今年の夏祭りは8/18(土)13時から!!みなさんぜひ遊びに来てください!!金魚やアヒルの人形すくいもあるよ(^^)



若園荘も開設6年目を迎えました。利用者が安心して、楽しく暮らせるように、そして地域との交流も支援しながら、いよいよ始まる暑い夏を乗り越えていきましょう。

ちいさな、春の使者来荘！



5月28日に今回初めて、近所の白梅幼稚園の園児19名が来荘しました。

「むすんで、ひらいて」などの曲に合わせて、リズムを取り、まるで自分の孫やひ孫が来たように楽しんでいました。

今回、若園荘に幼稚園児をお迎えするのは初めてでしたが、こちらの心配もよそに園児、利用者ともに、自然に交流していました。こちらから見ても微笑ましい時間をともに過ごしたと、感じました。

白梅幼稚園の皆様ありがとうございました。



～この街散歩～

利用者2人と若園荘から八幡神社入り口まで散歩してきました。

歩くうちに「ここは川徳の長屋があったところだ」「ここはエンドーチェーンのあった所だ」「学生時代よく通ったけれど、変わってしまったねえ」など懐かしがっていました。パン工房祭りに寄ったり、お客様とお話された後、八幡通りの入り口でチャグチャグ馬っこを見物。「何回見てもいいねえ。子供が頑張ってるね」と、とても喜んでいました。

また「あそこのお魚屋さん有名なの。昔からあるのよ」などと教えて頂くなど2人とも疲れを見せることなく、長い散歩を楽しんでいました。

さて、次はどこへいきましょうか？お疲れ様でした。



認知症カフェへ行こう！



認知症でも、障害があっても、住み慣れた地域で親しい人達と暮らしたい。

「優しい地域づくりをみんなで一緒に」の理念のもと開催の、ひまわり会主催「認知症カフェ」に、利用者と参加してきました。今回はマンドリンの3重奏でしたが参加した利用者は、普段聴く機会のない音色に興味をもち、青い山脈の曲では手拍子が出ていました。

また、他者との会話もして、盛り上がっていました。感想をお聞きすると「また、是非来たい」とのことでした。

認知症介助士もいるカフェであること。認知症の相談にも応じていること。地域の皆さんに認知症を理解していただけることや、ボランティアさんの歌や演奏を楽しんだりと毎回テーマは異なりますが様々な人々が一緒に楽しめるカフェと感じました。今後も利用者とともに参加したいと思っています。

～町内会行事への参加～

町内会の花植え、毎朝夕の水遣り、毎月1回の歩道の掃除などにも利用者の方が参加しています。朝早い時間ですが、元気に動いています。「あっちの方はいいの。これで終わりか」など職員の方が急ぎ立てられこともありますが、転倒しないように安全面に注意しながら出来るだけ地域の皆さんと交流していきたいと思えます。



《グループホームケアの「有効性」について》

厚生労働省29年度老人置けん健康増進推進事業
「ゆとり 2018 5・6月号より」

認知症グループホームにおけるグループホームケアの効果に関する調査研究事業の結果報告より。

- ①新規利用者はBPSD、介護負担度、生活の質のいずれもが改善された。
 - ②既存入居者（3ヶ月以上入居継続）はBPSD、介護負担度、生活の質ともに良好な状態を維持しているという画期的な研究成果がでたとのことでした。
- ◆画一的なケアではなく本人の意思やニーズ状態に応じたケア
 - ◆自立支援の観点から出来る事は自ら行なってもらう能力保持のケア
 - ◆各人の個性や価値観、生活リズムを尊重し、これまでの生活スタイルを継続したケア
 - ◆職員と利用者のコミュニケーションを重視したケア
 - ◆地域事業への参加、連携等の実践が成果に繋がったと報告されています。

若園荘の実践も標記ケアに向け再確認していきたいと思えます。

～バイタルサインの測り方の研修に参加して～

介護職に就き5か月と日の浅い私は、利用者の体調を知る上で一番基本となるバイタルサインの測り方を詳しく知りたくて参加しました。

バイタルはいつも血圧計で脈拍を測りますが、今回は参加者同士指で測ってみました。この方法での測定の経験は乏しく、自分の脈拍はわかってても他者の脈はわかりにくかったです。手動式の血圧計は心臓の高さにあわせて測る事を知りました。

また、質問の中で血圧を測れない状態になった時に、自分の判断で行動するのではなく、担当の医療機関に報告し指示を仰ぐことが大切であることと血圧計もメーカーにより使い方が違うので説明書に目を通し正しい使い方を周知しておく必要があるのではないかと感じました。

そして日頃から、利用者の様子を観察し、いつもと違う事に気付いて行動する事が安全安心につながり、だからこそ正しくバイタルを測る必要があることを感じました。

※バイタルサインとは「生命徴候」のことで、「脈拍」「呼吸」「体温」「血圧」「意識レベル」の5つが基本となっています。

敬愛荘

施設紹介

介護老人保健施設：病状が安定し、リハビリに重点をおいた介護が必要な方が対象の施設です。入所等の相談は気兼ねなく支援相談員までご連絡ください。

花の種蒔き

5月16日、白百合グループの方々が来荘され花の種蒔きをしました。土をポットへ入れ、種を蒔き土をかけました。種を蒔きながら「土はこれくらいいいの?」、「花が咲くのが楽しみだね」と利用者同士で話しあったり、職員やボランティアさんと会話しながら作業しました。

利用者全員が手際良く行えるわけではなく、片麻痺の利用者にはポットを押さえるなど利用者ごとに難しい部分を手伝い、土を移したり種を蒔くのは利用者に行ってもらうことで、少しでも達成感を感じてもらえるように職員、ボランティアさんが関わりました。

今回蒔かれた種はボランティアさんに育てていただき6月下旬に花壇への花植えを行います。花が育ち利用者の植えた花で花壇が彩られるのが今から楽しみです。



4月～6月の誕生日をお祝いする誕生会ではボランティアによる余興が行われ、笑顔で盛り上がりました。4月は白百合グループ、5月はふどうこども園の皆さんが来荘、歌や踊りなどの余興でお祝いし、6月も職員が心を込めてお祝いしました。誕生日を迎えた皆さん本当におめでとうございます。いつまでも元気で過ごしてください。

施設の生活 ～ある日の風景～

昼食前に食堂でDVDを使って体操を行っています。体の体操や口腔体操を3種類行っています。体操に参加している利用者は、テレビや職員を見ながら真剣な表情で取り組み、体全体を動かしています。時々居眠りしている利用者もいますが職員が声掛けしながら動ける範囲で楽しく行っています。

体操の中には声を出す場面もあり、食堂に利用者の明るい声が響いています。その後に歯科衛生士による口腔体操を行います。「パタカラ」の発声や舌の体操を行い嚥下機能の維持を目指しています。この時童謡をみんな笑顔で大きな声で歌っています。



午後は、各チームでレク活動や機能訓練などを行っています。レク活動では塗り絵等利用者自身がやりたいことを会話をしながら行っています。また、夕方頃より輪投げや物送りゲームなど日替わりで集団レクを行っています。普段は仲良く話している利用者同士も勝負事となると真剣に対戦しています。機能訓練では、食堂にある平行棒や歩行器等を使用して歩行練習を行ったり、屋外の散歩などを行っています。

毎日の生活の中で体操や機能訓練を行うことで摂食嚥下機能や歩行機能の維持を目指し全職員が協力して関わっています。



入院中の認知症症状のある人のケア

—「認知症高齢者の看護実践に必要な知識について」の研修から—

南昌病院 一般病棟 主任看護師 中村 一美



多職種連携をメインとして地域包括ケアシステムの構築が進む中、医療機関で働く看護師にとっての役割について考えてみました。

現在、病院に入院する高齢の患者さんには、主たる病気での入院治療を目的のほかに、認知症症状のある患者さんが多くなってきている現状があります。認知症の症状には、さまざまな症状が有ることから実際に患者さんのケアをするには、その症状に合わせ多様な対処が求められるなど難しいことがあります。その難しさを少しでも乗り越えて一人でも多く在宅復帰することが出来る看護がしたいとの思いから、研修に参加してきました。

今回、私が研修会に参加する機会を得た中で「パーソン・センタード・ケア」について述べたいと思います。「パーソン・センタード・ケア」とは、「その人を中心としたケア」ということで、そのケアには、認知症の人とのコミュニケーションが、もっとも大事で「話しかける」ことが大きなポイントになるということでした。そのポイントとは

①「あなた」を認識してもらう

- その人の視界に入りましょう、(マスクをはずして笑顔で)

②目を合わせる

- 鼻と鼻の高さ、視力やパーソナルスペース(来てほしくないエリア)に配慮しましょう

③話しかける

- 名前を呼ぶ、やさしくゆっくり、身振り手振りでいきましょう

④許可をとりましょう

⑤分かってもらいましょう

認知症の人には、意思も経験もあります。認知症の人の見ている世界があるということを理解した上での対応が「パーソン・センタード・ケア」であることを学びました。また、認知症の方は、入院中に毎日関わる看護師の言動や対応の仕方によってそのときの思いを態度に表しているとのこと。翻ってみれば「認知症の症状のある人の行動は、援助者である看護師の鏡である」ということを改めて教えられた気がします。このことを重く受け止めて患者さんと家族に、真摯な気持ちで関わっていきたくと改めて肝に銘じることができた研修でした。

敬寿荘

施設紹介

グループホーム：認知症の高齢者が共同で生活できる場(住居)で、食事、入浴などの介護や支援、機能訓練が受けられる施設です。矢中町在住者が対象です。

熱中症になったなら!!

＝岩手県主催の岩手県健康セミナー〈熱中症対策〉を受講して＝

グループホーム敬寿荘 介護福祉士 佐藤 淳司



6月14日(木)岩手県主催の岩手県健康セミナー〈熱中症対策〉～この夏、元気に楽しく過ごしましょう～と題して、健康セミナーが行なわれました。

講演では、トヨタ自動車産業医として社内の健康管理を行っている漆山裕希先生の取組事例と盛岡中央消防署の救命救急士、夏堀卓先生による応急手当のポイントなどを講義していただきました。

その中から、ポイントとなる点を紹介したいと思います。

【熱中症はどんな時どんな人になるか】

熱中症は、汗をかくななどして、身体から水分や塩分が減少し、熱が身体にこもるなどして起ります。そのため特に、季節の変わり目で急に暑くなったり、湿度が高くなったりする日が要注意です。

そして高齢者は、体内の水分量が低い、体温調節機能が低下している、暑さに対する感受性が低い、などの特性があり特に熱中症になりやすくなっています。

さらに一日中一人で部屋にいることも多いため、熱中症にかかっていることに気付かれず重症化することも少なくありません。



【熱中症になったら】

熱中症は重症度に応じて3段階に分類されます。

【Ⅰ度】めまい、立ちくらみ、大量の汗、こむら返りなどの筋肉の硬直などの症状

⇒現場での冷所で安静・首筋、わきの下、そけい部を冷やす・冷水、イオン飲料、経口補水液や塩分のあるものを与える。といった対応が必要です。

【Ⅱ度】頭痛、嘔吐、倦怠感、集中力や判断力の低下などの症状

⇒医療機関での診察が必要。体調管理、安静、十分な水分と塩分(ナトリウム)の補給

【Ⅲ度】医療機関の検査で、意識障害・けいれん発作・肝、腎機能障害・血液凝固異常などが認められた場合。

⇒入院加療(集中治療)が必要。体温管理、呼吸・循環管理治療

【熱中症を防ぐには】

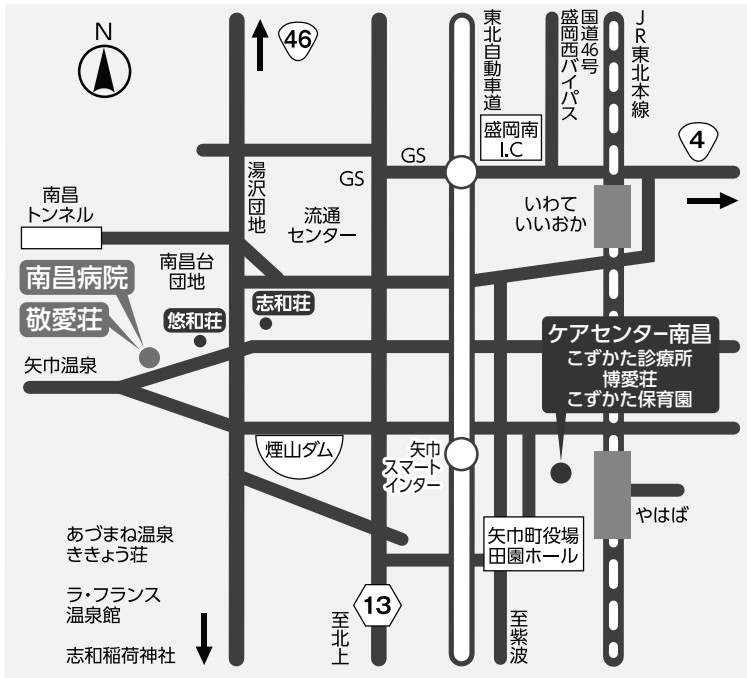
◎寝不足や疲労はしていないか、食事はとったかなどの体調管理とともに、のどが渇く前にこまめに給水、塩分補給をする。

◎日射や熱を避ける工夫をする。

◎室内では風通しを考える、エアコンなどで室内環境を整える。手元に水を置き定期的に口にしている習慣をつける。

※日常生活では、大量に汗をかいていない場合でも、こまめに水分を補給することが大切です。これからの暑い季節をお互いに声を掛け合い安全に過ごしましょう。

矢巾町エリア



盛岡市エリア



南昌病院診療案内

診療時間 / 9:15~17:00

月	神経内科	佐藤 典子
火	内科	小原 進
水	脳神経外科 循環器内科	山口 一彦 西城 精一
木	脳神経外科	齊木 巖
金	外科	菅野 干治

こずかた診療所診療案内

診療時間 / 9:00~17:30 (火曜日 19:00まで)

月~金	内科	三浦 秀悦
月・火(午前)	内科	足澤 輝夫
木(午前)	内科	市川 隆
金	神経内科	米澤 久司 / 高橋 純子

休診日: 土曜・日曜・祝日

編集後記

◆日大アメフト部の監督、レスリングの伊調選手、元財務官僚といえ最近話題になり世間を騒がせました。それもこれも様々なハラスメント(人を困らせること、嫌がらせ)が問題になっています。代表的なのは、セクシャル・ハラスメント(セクハラ)、パワー・ハラスメント(パワハラ)、モラル・ハラスメント(モラハラ)などですが、まだまだたくさんさんのハラスメントが。マタニティー、スモーク、アルコール、シルバー、アカデミックなどは分かりますが、セカンド、エイジ、ゼクシャル、パーソナル、テクノロジー、ドクター、ペット、エアー、カラオケ、スメルなど何のハラスメントか分かり難いものも。ハラスメントをしているその人にその自覚がないこともあり対応に困ることもあります。

◆職場には様々なハラスメントが内在しています。ハラスメントは、職員の心の健康、職場風土の悪化、本人とまわりの士気低下、能力発揮ができず優秀な人材の流失など企業にとって大きなリスクとなります。企業は、ハラスメント対策をしっかりと取り組んでいく必要があります。医療従事者には、ハラスメントのみならず、医療法の改正による勤務環境改善など幅広い対策を講ずるよう求められています。

医療法人社団 帰厚堂	■南昌病院	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-181	TEL 019-697-5211	FAX 019-697-5215
	■介護老人保健施設 敬愛荘	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-181	TEL 019-697-3288	FAX 019-697-0641
	■小規模多機能型居宅介護事業所 恒和荘	〒020-0805	盛岡市東新庄1丁目7-23	TEL 019-681-4166	FAX 019-604-1120
	■グループホーム 若園荘	〒020-0886	盛岡市若園町8-11	TEL 019-601-5501	FAX 019-604-1660
	■ケアセンター南昌	〒028-3614	紫波郡矢巾町又兵工新田5-335	TEL 019-698-2015	FAX 019-611-2071
	◆こずかた診療所			TEL 019-698-3033	FAX /
	○訪問リハビリテーションこずかた			TEL 019-611-1380	FAX /
	◆介護老人保健施設 博愛荘			TEL 019-698-2015	FAX / ※
	◆博愛荘デイケアセンター			TEL 019-697-1526	FAX /
	◆デイサービスつむぎ			TEL 019-698-2015	FAX / ※
	◆訪問看護ステーションやはば			TEL 019-698-1388	FAX /
	◆ヘルパーステーションやはば			TEL 019-698-1385	FAX /
	◆訪問入浴介護やはば			TEL 019-698-1385	FAX /
社会福祉法人 敬愛会	◆やはば指定居宅支援事業所			TEL 019-697-0537	FAX /
	◆ショートステイやはば			TEL 019-698-2015	FAX / ※
	◆グループホーム 敬寿荘			TEL 019-697-9002	FAX /
	▲こずかた保育園			TEL 019-698-3008	FAX 019-611-0221
	▲矢巾町地域包括支援センター			TEL 019-611-2855	FAX 019-611-2937
	●特別養護老人ホーム 志和荘	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-100	TEL 019-697-6355	FAX 019-697-6356
	●地域密着型介護老人福祉施設 悠和荘	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-312	TEL 019-698-1661	FAX 019-698-1671
	●敬愛会老人デイサービスセンター	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-514	TEL 019-697-5953	FAX 019-697-7680
●指定居宅介護支援事業所	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-312	TEL 019-697-0880	FAX 019-698-1671	
●矢巾町地域包括支援センター					
	さわやかハウス相談室	〒028-3615	紫波郡矢巾町南矢幅14-78	TEL 019-697-5570	FAX 019-697-5570

※ケアセンター南昌代表電話